

公式記録

平成18年度兵庫県高等学校サッカー選手権大会 準決勝【37】

主審署名 **小川 耕司**

日時	2006年11月5日(日) 11:00 キックオフ			会場	しあわせの村多目的運動広場							
天候	晴れ	風	弱風	ピッチ	芝・クレー	状態	良好・不良・泥沼			試合形式	80分/延長20分 PK戦有	
マフフィヨナ	辺見 康裕		会場主任	堀口 泰司		記録	岡本 進司 / 赤松 正人		観衆	500人		
主審	小川 耕司		副審1	横田 滋		副審2	近藤 昭男		第4の審判員	鍵野 剛一		
チーム名	関西学院高等部					kick off	太子高校					
	先					2	先					
	背番号						背番号					
	○×						○×					

交代	シュート					得点	選手名 (学年)	番号	位置	位置	番号	選手名 (学年)	得点	シュート				交代
	No.	OUT時間	延後	延前	後半									前半	前半	後半	延前	
							熊取谷 直毅 2年	1	GK	GK	12	田口 飛翔 2年						分
							丸山 浩太 3年	2	DF	DF	6	青木 博哉 3年						分
							阿二 啓介 3年	3	DF	DF	2	松尾 知晃 3年						分
				1		1	山下 浩平 3年	4	DF	DF	4	住田 裕樹 2年						分
							十河 生 2年	5	DF	DF	3	大塚 信二 3年	1					分
							山田 悠一 3年	⑦	MF	MF	5	吉田 佑次 3年	3	1				分
6	60					2	井上 大志 3年	8	MF	MF	⑧	三輪 優太 3年			1			分
18	79			1			横山 大樹 3年	16	MF	MF	10	高島 卓也 3年	2					分
				2	2		梶川 諒太 2年	10	MF	MF	21	春名 晃輔 2年						分
23	72			1			黒田 康平 3年	9	FW	FW	9	藤塚 真一 3年	1					分
19	51				3	1	小山 慎太郎 2年	11	FW	FW	18	麦踏 峻右 2年	1				37	分
							隅田 亮平 3年	20	GK	GK	1	中山 陽平 2年						分
							大江 元 3年	12	DF	DF	25	長井 英士 2年						分
							芦田 彪介 2年	13	DF	DF	16	山本 直 2年						分
							水谷 隆宏 1年	14	DF	FW	20	石本 達也 2年						分
8							西岡 貴 3年	6	MF	MF	11	小林 直弘 3年						分
							渡辺 侑弥 2年	15	MF	FW	7	山本 廉 3年						分
16							春日 大輝 3年	18	MF	FW	14	上原 智也 3年						分
11				1			山内 一樹 1年	19	FW	DF	15	芝崎 貢司 3年						分
9							浅尾 昇平 3年	23	FW	MF	22	秋田 真弥 2年						分

時間	警・退	No.	氏名	事由	山根 誠				監督				大川 幸二				時間	警・退	No.	氏名	事由
					合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計						
					13			6	7	シュート	8	2			10						
					6			4	2	GK	9	7			16						
					2			2	0	CK	1	3			4						
					10			2	8	直接FK	2	5			7						
					0			0	0	間接FK	1	1			2						
					0			0	0	(ワザド)	1	1			2						
					0			0	0	PK	0	0			0						

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過] 略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS													
	6分	関西学院	11	小山慎太郎	1-0	右	④	↑	中央	⑪	H	⑧	S	相手	DF	こぼれ球	⑪	左足	S
42分	関西学院	4	山下浩平	2-0	左	CK	↑	相手	FP	刈	④	左足	S						

戦評者 所属【 県立洲本高等学校 】 氏名【 佐野 知彦 】

両チームともワイド攻撃を狙いとする4・4・2のシステム。立ち上がり左サイドからの攻撃から太子が決定機を得るが、ポストに阻まれる。前半6分関学がポストプレーで左右に揺さぶり、左サイドクロスで⑪小山が決めて先制する。その後、中盤でのプレスが続き両チームともサイド攻撃の芽を摘まれる。前半終了間際に運動量が落ちた関学に対して、太子が両サイドを広く使った攻撃でチャンスメイクをするが枠を捕らえることが出来ずハーフタイム。後半2分左コーナーキックからのこぼれ球を関学④山下がミドルシュートを突き刺し、流れを引き寄せる。その後、太子がポゼッション率は高めるが、両サイドからの攻撃が単調となり、ディフェンシブになった関学ディフェンスを崩すことは出来なかった。全体的には2日目の疲れもあつたか、運動量が落ち、アプローチが甘かった。